

2023年3月期 決算概要



2023年5月12日

株式会社ビーアールホールディングス

主要数値の実績

受注高は増加、売上高は横ばい、営業利益、経常利益及び親会社株主に帰属する当期純利益は2年連続の減益

百万円

	前期実績	当期修正計画	当期実績	前年増減額	計画増減額
受注高	31,739	—	40,297	+8,558 (+27.0%)	—
売上高	35,899	35,000	36,022	+122 (+0.3%)	+1,022 (+2.9%)
営業利益	2,289	1,550	1,636	▲653 (▲28.5%)	+86 (+5.5%)
経常利益	2,296	1,500	1,624	▲672 (▲29.3%)	+124 (+8.3%)
親会社株主に帰属する当期純利益	1,527	1,000	1,025	▲502 (▲32.8%)	+25 (+2.5%)
1株当たり当期純利益(円)	33.85	22.09	22.62	▲11.23	+0.53
ROE (%)	12.1	7.2	7.6	▲4.5	+0.4

※当期修正計画の数値の一部は、2022年11月11日に開示しました「業績予想の修正に関するお知らせ」に掲載したものです

今期決算のトピックス

●受注高の増加（対前年同期比 +8,558百万円）

当期の受注高につきましては、建設事業において床版取替工事等の大型物件の受注が増加し前年同期比6,670百万円の増、また製品販売事業において橋桁及び建築製品等の受注が増加し前年同期比1,864百万円増となりました。全セグメント合計で前年同期比8,558百万円増の40,297百万円となりました。

●売上高の増加（対前年同期比 +122百万円）

建設事業においては、期首手持工事減少による影響及び大型工事の受注が増加したものの、進捗は翌期以降となり、前年並みの30,853百万円となりました。契約先別では、JRTTは前期比で減少しているものの、国土交通省及びNEXCOが前期比で増加となっています。また製品販売事業においては、床版製作等の売上高が増加し前年同期比432百万円の増となりました。全セグメント合計で前年同期比122百万円増の36,022百万円となりました。

●当期純利益の減少（対前年同期比 ▲502百万円）

親会社に帰属する当期純利益は対前年同期比502百万円減少の1,025百万円となりました。これは、売上高は増加したものの、建設事業において前期に大幅な設計変更獲得による多額な利益計上を行った工事があった事による反動及び契約変更の確定時期が翌期以降になった事等によるものであります。

次期の業績予想及び配当

売上高、営業利益、経常利益及び親会社株主に帰属する当期純利益は当期実績より増収増益を見込み、配当は前期と同額を予定

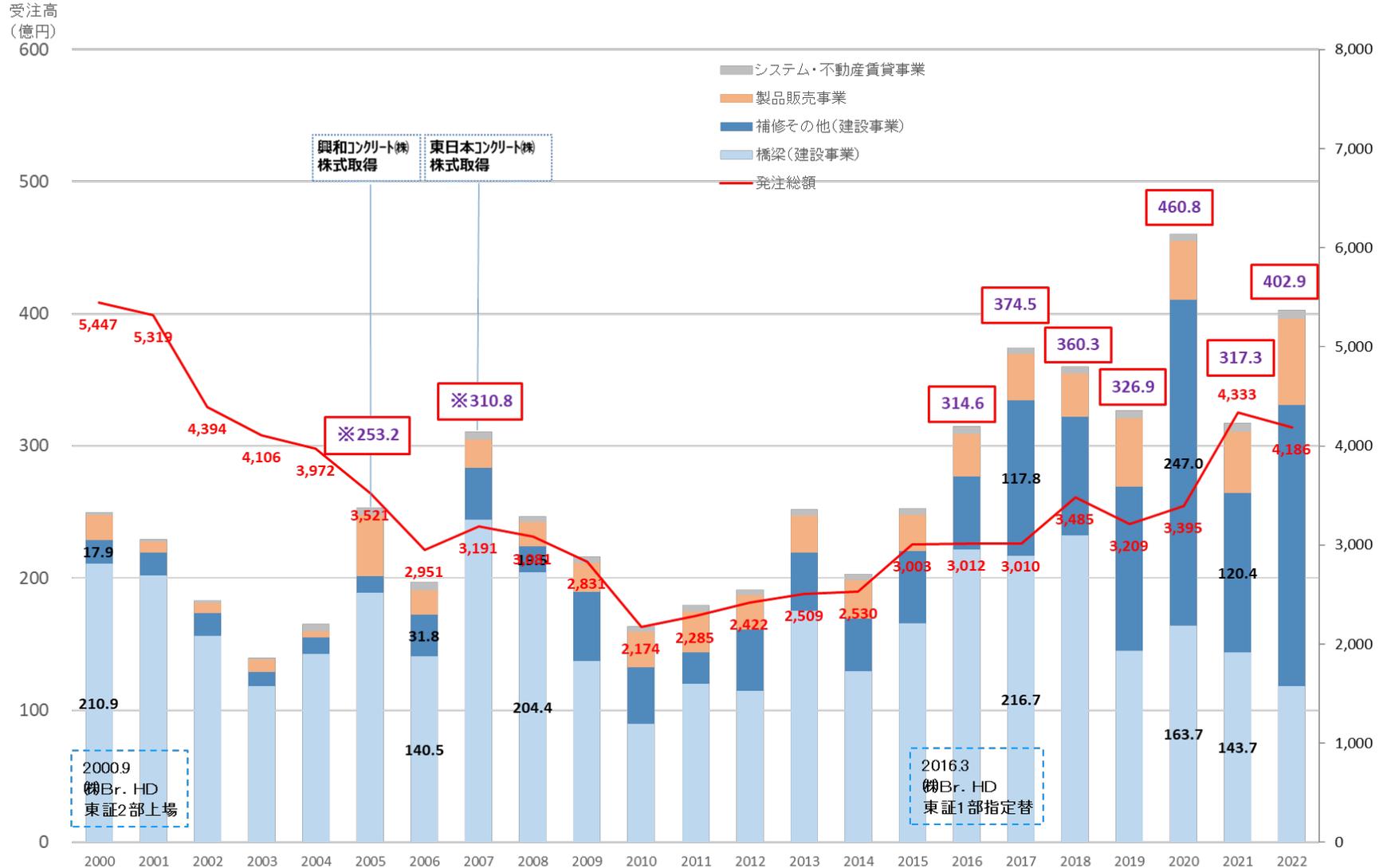
百万円

	2023.3期	2024.3期 予想	増減額	増減率 %
売上高	36,022	42,000	+5,978	+16.6
営業利益	1,636	2,050	+414	+25.3
経常利益	1,624	2,000	+376	+23.2
親会社株主に帰属する当期純利益	1,025	1,300	+275	+26.8
1株当たり当期純利益（円）	22.62	28.67	+6.05	+26.7

※2024.3期は2023.3期下期に受注した大型工事の進捗が下期以降より進むと予測しております。

	2023.3期	前期比	2024.3期 予定	前期比
1株当たり年間配当金	12円 (中間6円)	—	12円	—
連結配当性向	53.0%	+17.5%	41.9%	▲11.1%

年度別セグメント別受注実績・年度別発注額推移比較



※年度別発注総額は、一般社団法人プレストレスト・コンクリート建設業協会の調べによる統計値です

※H17年度の受注高には興和コンクリート㈱の全株式を取得したことに伴い、興和コンクリート㈱の繰越高56億円が含まれております。

※H19年度の受注高には東日本コンクリート㈱の全株式を取得したことに伴い、東日本コンクリート㈱の繰越高54億円が含まれております。

当期の主な受注工事

工事名称	契約先	セグメント
中国自動車道（特定更新等）吉野川橋他1橋床版取替工事	西日本高速道路（株）中国支社	建設事業
北陸自動車道 高瀬橋（下り線）床版取替工事	東日本高速道路（株）新潟支社	建設事業
令和4年度 東九州自動車道 香下大橋（PC上部工）工事 香下大橋	西日本高速道路（株）九州支社	建設事業
令和4～6年度 広島高速1号線3橋床版取替工事	広島高速道路公社	建設事業
小田原厚木道路（特定更新等）矢作高架橋他1橋床版取替工事 （2022年度）	中日本高速道路（株）東京支社	建設事業
東海環状自動車道 北勢第三高架橋第二工区（PC上部工）工事	民間共同企業体	製品販売事業
令和4年度三隅・益田道路大浜第2高架橋外PC上部工事	中国地方整備局	建設事業
令和4年度北条道路北条高架橋第4PC上部工事	中国地方整備局	建設事業
（仮称）箕面市船場東三丁目計画新築工事	民間企業	製品販売事業
中国自動車道（特定更新等）吉備谷橋他2橋床版取替工事	民間企業	製品販売事業
とくそう橋更新	民間企業	建設事業
福山沼隈線 道路改良工事（R4-10工区）その2	広島県東部建設事務所	建設事業
R4東関道野友地区跨道橋上部その3工事	常総国道事務所	建設事業

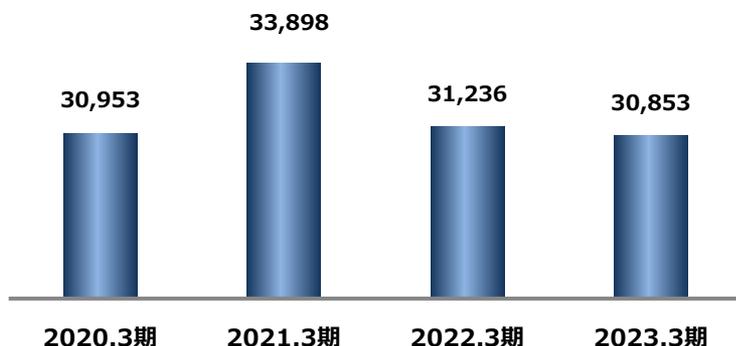
セグメント別情報

建設事業



売上高(累計)

(単位：百万円)

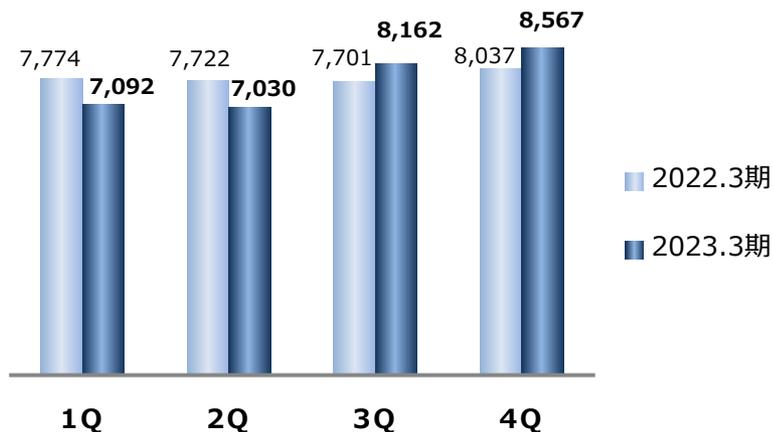


売上高 308億53百万円 (対前期比1.2%減)

- 期首手持ち工事の減少
- 大型工事の受注は増加したものの、進捗が翌年度以降となり、前年同期並み
- NEXCO発注工事の売上高は増加

売上高(四半期別)

(単位：百万円)



売上高 対前年同期増減

	1Q	2Q	3Q	4Q	年間
2022.3期	+0.7%	▲1.6%	▲14.7%	▲13.5%	▲7.9%
2023.3期	▲8.7%	▲9.0%	+6.0%	+6.6%	▲1.2%

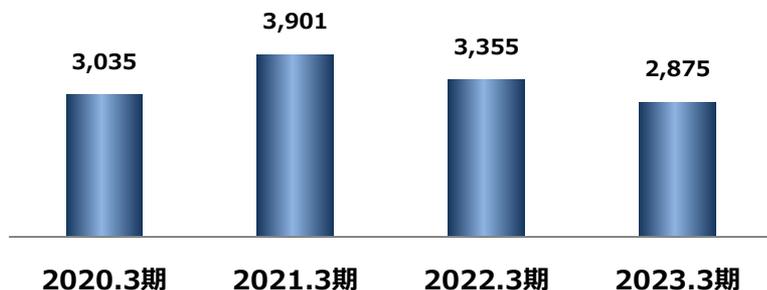
セグメント別情報

建設事業



セグメント利益(累計)

(単位：百万円)

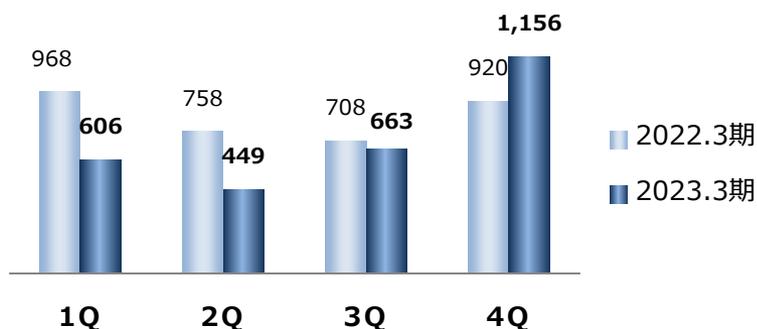


利益 28億75百万円 (対前期比14.3%減)

- 前期に大幅な設計変更獲得による多額な利益計上を行った工事があった事による反動
- 契約変更時期が翌期以降にずれ込み

セグメント利益(四半期別)

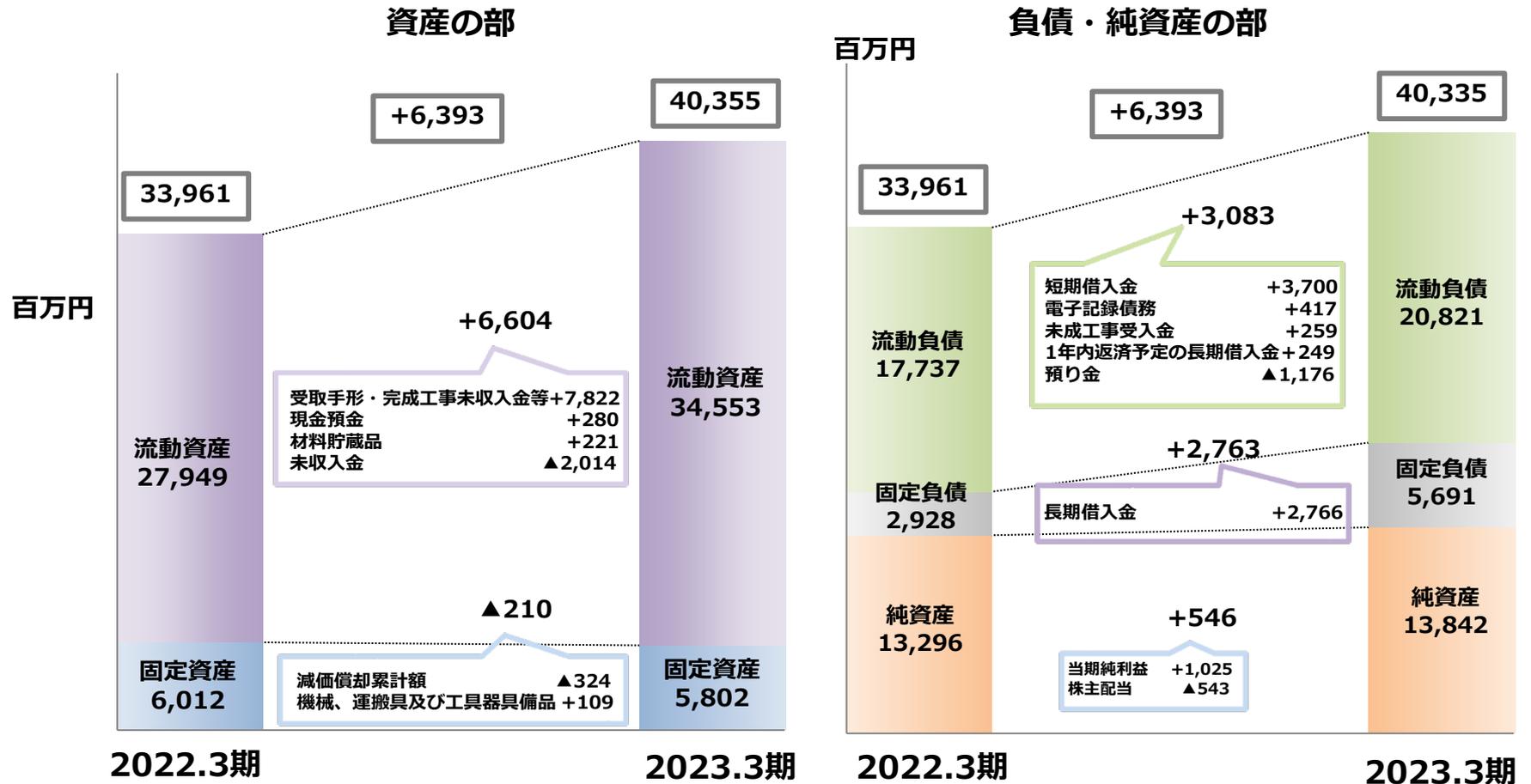
(単位：百万円)



セグメント利益 対前年同期増減

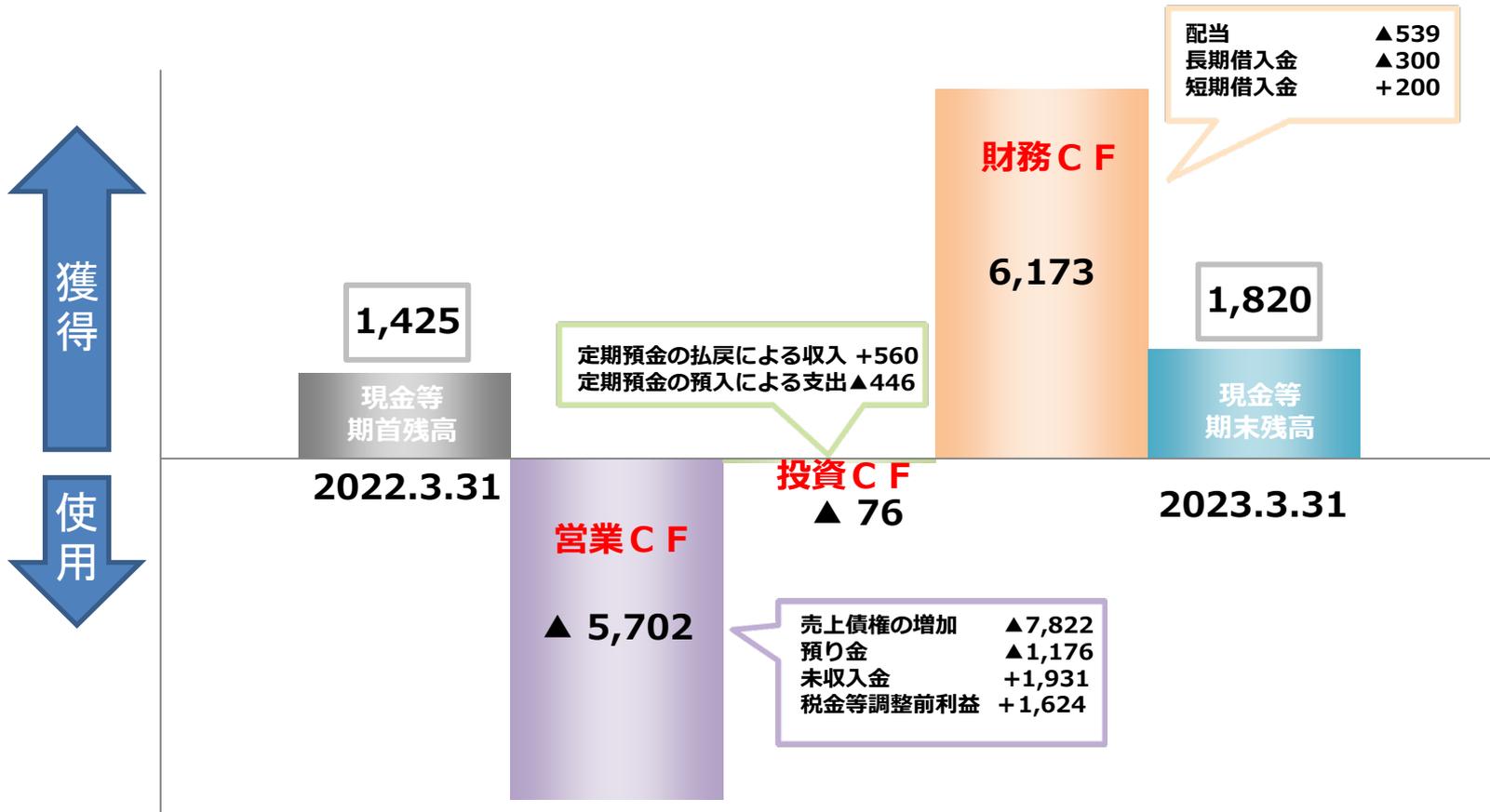
	1Q	2Q	3Q	4Q	年間
2022.3期	+32.1%	▲0.3%	▲25.4%	▲36.9%	▲14.0%
2023.3期	▲37.5%	▲40.7%	▲6.3%	+25.7%	▲14.3%

連結貸借対照表



連結キャッシュ・フロー

百万円



【参考】発注先別受注高、売上高、手持高（建設事業）

百万円

2022.3期	期首手持高	当期受注高	当期売上高	粗利益※	粗利率 %	期末手持高
国交省	743	974	839	118	14.1	878
その他官公庁	8,930	7,127	9,221	1,754	19.0	6,836
NEXCO	31,058	14,900	13,740	1,552	11.3	32,219
JRTT	3,013	368	2,641	381	14.4	740
民間	7,840	3,051	4,794	1,053	21.9	6,097
計	51,583	26,422	31,236	4,860	15.6	46,770

2023.3期	期首手持高	当期受注高	当期売上高	粗利益※	粗利率 %	期末手持高
国交省	878	2,366	1,252	146	11.6	1,992
その他官公庁	6,836	8,739	7,946	1,603	20.1	7,629
NEXCO	32,219	15,378	15,718	1,530	9.7	31,879
JRTT	740	390	1,085	174	16.0	45
民間	6,097	6,219	4,850	692	14.2	7,465
計	46,770	33,093	30,853	4,147	13.4	49,010

- ✓ 国土交通省の受注高は、前期比の2.4倍と増加。NEXCOの受注高は対前期比3.2%増加
- ✓ 売上高は対前期比1.2%減少するなかNEXCOの売上高は手持大型工事の進捗が伸び対前期比14.4%増

※粗利益には、過年度原価、工場、倉庫及び工事内勤者の共通原価は含めておりません。

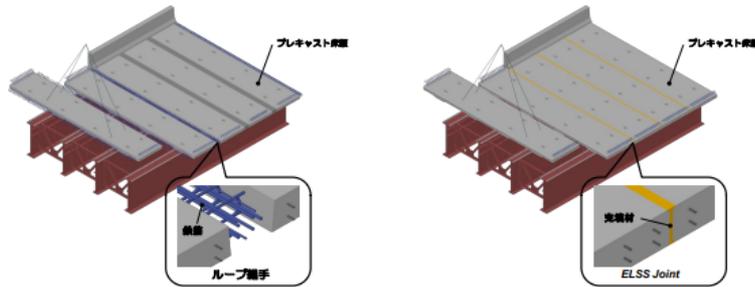
【その他トピックス】 新技術による効率化

継手部の配筋を省いたプレキャスト床版継手 (ELSS Joint)

公共工事での初採用について

日鉄エンジニアリング株式会社（代表取締役社長：石俣行人、本社：東京都品川区）と極東興和株式会社（代表取締役社長：山根隆志、本社：広島県広島市）の2社で共同開発したプレキャスト床版継手 ELSS Joint（エルスジョイント）が、公共工事に初めて採用されました。

ELSS Joint は、従来の鉄筋を用いたループ継手とは異なり、プレキャスト床版間に低剛性の専用材料を充てんするだけで床版相互を半剛接合する新しい継手構造です。継目幅が狭いため、プレキャスト床版の幅を広げて施工枚数を減らすことが可能で、また継目部に鉄筋を使用することなく簡単な方法で接合できるため、床版の現地施工を大幅に効率化できます。



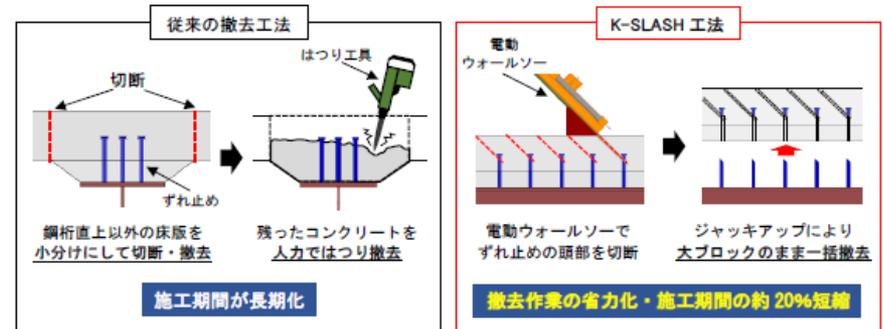
【従来継手（ループ継手）（左）と開発した継手構造（右）の構造概要】

鋼合成桁橋の RC 床版撤去作業の合理化技術を開発

～電動ウォールソーを用いた RC 床版撤去工法「K-SLASH 工法」～

極東興和株式会社（代表取締役社長：山根 隆志、本社：広島県広島市）は、鉄筋コンクリート床版（以下 RC 床版）の更新を行う既設鋼橋のうち、ずれ止めが多数配置される合成桁橋※1を対象として、RC 床版の撤去作業を合理化する「K-SLASH 工法」を開発いたしました。

本工法は、電動ウォールソーによりコンクリート床版上面から内部に配置されたずれ止めの頭部を斜めに先行切断し、非合成桁橋※2と同様のジャッキアップによる方法で鋼桁から床版を分離・撤去する工法です。複数作業の同時並行化と大ブロックでの床版分離・撤去作業を可能とすることで、合成桁橋における従来工法である「小ブロックで床版を切断し、鋼桁上のコンクリートをはつり撤去する方法」と比較して、撤去作業の省力化や施工期間の短縮に寄与します。



従来の撤去工法と K-SLASH 工法による既設 RC 床版撤去概要

※1 合成桁橋：多数のずれ止めにより鋼桁と RC 床版が堅固に結合され、両者が一体となって荷重に抵抗する構造。

※2 非合成桁橋：合成桁橋に比べてずれ止めの配置が少なく、鋼桁のみで荷重抵抗する構造。